

## 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇「マイプラン楽習」や「自由進度学習」の導入により、児童が自ら学習順序や課題を選択し、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。</p> <p>◇各種アンケート結果より、「一人一台端末を活用し、情報活用能力を育成する情報教育を推進できたか」という評価項目(③)において、教職員の肯定評価(A+B)が95%(昨年度83%)と大幅に向上し、端末活用の土壌が整っている。</p> <p>◇各種アンケート結果より、「自ら課題を持ち、主体的に学習に取り組んでいるか」という項目(①)において、保護者のA評価(43%)が昨年度(37%)より伸長しており、家庭から見た子どもの主体性には一定の成果が見られる。</p>
	<p>◇各種アンケート結果より、教職員による「主体的な学習への取り組み(①)」のA評価は15%にとどまり、昨年度(33%)から半減している。特に高学年児童の自己評価(A評価29%)も昨年度(39%)より低下しており、主体的な学びの実感に課題がある。</p> <p>◇「総合的な学習の時間」の現状分析の結果、単元が学年ごとに細切れで「問い」が継続しておらず、4年間を見通した「学びの系統性」が成立していないことが明確な課題となっている。</p> <p>◇自由進度学習において、自分で学習を進められる子と支援が必要な子の学力成果の差への対応が、教職員アンケートで最重点の課題として挙げられている。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇現状：低学年では「自分のよさに気付き、楽しく登校できている」という項目のA評価が79%(昨年度70%)と極めて高く、自己承認の基礎が育っている。</p> <p>◇課題：一方で、高学年の同項目のA評価は49%(昨年度59%)と10ポイント低下している。発達段階に応じ、「教え合い」から「異なる視点を認め高め合う質の高い協働」へとシフトし、社会的な自己有用感を高める必要がある。</p>

### 「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

## 「自らの学びを自己調整し、他者と協働しながら、社会に働きかける問いを解決する力」

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究の重点「楽習」の実現に向けて、教職員が互いの授業案や授業自体の交流する機会を設定する。</p> <p>(2) 「豊平版・探究発達モデル」への構造改革：従来の領域別配置を、3年「身近理解」から6年「社会参画」への発達段階に応じた系統的なカリキュラムへ再編する。</p> <p>(3) 「本物の経験」を通じた単元の厳選：年間単元を2～3つに絞り、地域人材などの外部リソースを直接活用する場を重視する。</p>	<p>①「社会(学校)を更新する」プロジェクトの推進：6年「豊小アップデートプロジェクト」等において、下級生や地域の困りごとを自分たちで解決・改善提案する経験を積ませる。</p> <p>②Chromebook運用の「自己調整」(令和8年度新方針)：児童の健康と生活リズムを守るため、利用基準を全校共通の基盤とする。その上で、ブロックごとに創造的な使い方の範囲や、ルール違反時の対応を児童主体の対話で決定・更新し、自律的に生活をコントロールする力を育む。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇全ての探究単元において、情報の整理・分析、発信のツールとしてICTを位置付ける。また、著作権・肖像権の尊重を「法的責任」の観点からも指導し、責任ある情報発信能力を育成する。</p>		

### <本プログラムの実行に向けて>

